

児童の空間概念の形成に関する研究

— 小学校6年理科の学習を通して —

秋吉博之 (就実大学), 福井広和 (岡山市立中央小学校)

The Development of a Concept of Stratum in School Children

Hiroyuki AKIYOSHI (Shujitsu University)

Hirokazu FUKUI (Okayama City Chuo Elementary School)

抄 録

都市部に位置する小学校で6年理科「大地のつくりと変化」の学習において学校内で実践できる教材を用いて授業を行い、その授業実践の前後で児童の空間概念に関する基礎的な調査を行った。授業では学校建設時のボーリング標本、はぎ取り地層等を用いて実践を行った。事前・事後調査のいずれにも回答した児童29名について結果をまとめた。事前調査では6割を超える児童が「地層」について記述しており、児童の空間概念に関するレディネスに経年的な変化が見られることが考察された。事後調査では児童29名の全員が「地層」に関する記述が見られた。このなかで24名の児童は「水平な地層が連続している」として図示をしていた。さらに4名の児童は「地層が変形を受け、傾斜している」として質問紙に断層を図示していた。1名の児童は岩盤について図示をしていた。

キーワード：空間概念, 小学校理科, 地学教材, 児童